



平和を語り継ぐ 明石に残る空襲の跡を展示 一戦後76年—

第二次世界大戦の終戦から今年で76年が経過します。空襲の記憶を風化させることなく、次の世代に継承するため、今年1月に文化博物館内に「平和資料室」を開設しました。

この夏、平和の大切さを考える機会として、お立ち寄りください。

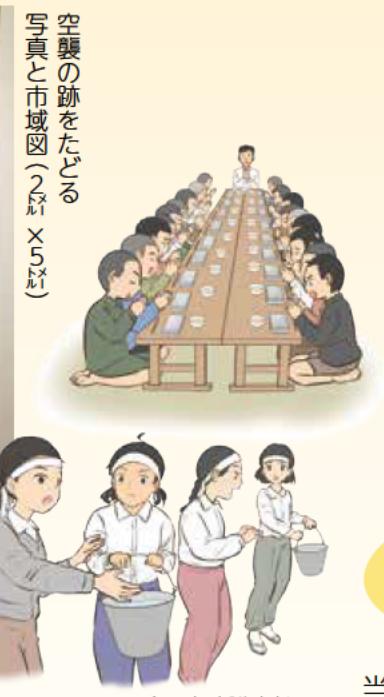
2021年1月開設 平和資料室 観覧無料

戦争の記憶を風化させない

明石初の常設展
文化博物館内に



当時の暮らしや学校の様子を、戦争体験者のインタビューとともに紹介。空襲を受けたときの写真や、今も市内に残る29か所の慰霊碑を紹介しています。



明石の戦災をテーマとした市内初の常設展。イラストや写真を使って、分かりやすく解説しています。

明石市立文化博物館

住所／明石市上ノ丸2-13-1
開館時間／午前9時30分～午後6時30分
(入館は午後6時まで)
休館日／月曜日(休日、特別展期間中を除く)、年末年始

TEL 918-5400 FAX 918-5409

平和資料室(2階)／観覧無料
常設展・特別展も中学生まで観覧無料
シニアいきいきパスポート提示で観覧無料

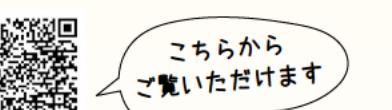
平和資料室に関する
お問い合わせ

人権推進課(明石市役所内)

TEL 918-5058
FAX 918-5131

戦争体験者の
声を動画で聞く

当時、子どもだった4人の戦争体験者の声を
聞くことができます。



こちらから
ご覧いただけます



あまりにもうめき声が大きくて恐ろしくて
(故 西村 寛さん)

3年生から上は学徒動員で車両工場で働いた
(福田 洋子さん)

ふくだ ようこ

(宗像 邦彦さん)

(戦争は)やってはいけない
むなかた くにひこ

(宗像 邦彦さん)

市ホームページでも
明石の空襲をることができます



平和啓発マンガ
「七夕の願い
～明石空襲～」



ぼくの住んでいるまちでも、
空襲で1500人以上の人
が亡くなつたのを知つて
おどきました。
おどきました。
2度と戦争はいやだと
思いました。



明石の空襲－史実編－

明石が受けた空襲による被災の状況を中心に、今も市内に残る戦争の傷跡や空襲の様子、空襲で犠牲になった人たちを慰霊する碑を、当時の写真や文献資料などを交えて紹介。

ホームページ
はこちから

ホームページ
はこちから

明石に住む高校生ゆうきと明子。登校中に出会ったおばあさんから明石に空襲があったことを聞き、帰りに明石公園にある「明石空襲の碑」を見に行く。そして、自分の家族やまちのことを知ることに…。

6回の空襲が明石に

終戦の年にあたる昭和20年に、明石市内では6回にわたり空襲がありました。

1月19日には、兵庫県内最初の本格的な空襲があり、当時戦闘機などを生産していた川崎航空機明石工場が標的にされました。

6月9日の空襲では、明石公園周辺と明石市西部が被災し、犠牲者数が最も多い空襲になりました。

空襲当時の明石市(昭和19年4月1日時点)
人口／8万1544人
世帯数／1万7477世帯

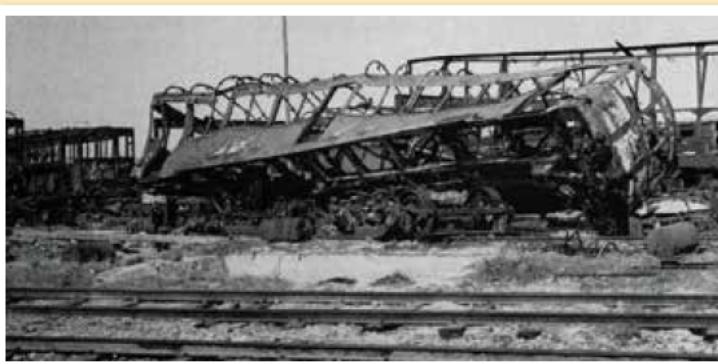


爆撃により明石城周辺は焼け野原に(昭和20年)

県内2番目の被害規模——1560人が犠牲に——

回	爆撃月日	死者・行方不明者	被害家屋	主な被災場所
第1回	1月19日	327人	684戸	川崎航空機周辺・大蔵・大久保
第2回	6月9日	656人	1861戸	明石公園周辺・南船上
第3回	6月22日	61人	548戸	川崎航空機周辺
第4回	6月26日	149人	1450戸	明石公園前・鷹匠町・3番町
第5回	7月7日	367人	9179戸	明石駅周辺
第6回	7月28日	—	—	明石川水管橋付近
合計		1560人	13722戸	

*被害家屋は全焼・全壊・半焼・半壊戸数の合計。7月28日は明石川水管橋が破壊された。被害状況などは総務省ホームページより抜粋



山陽電車の車両工場が被災。
7月7日には、20両以上の車両が全焼した。

戦争は個人を殺してしまう

私は当時15歳で、高松市の工場で働いていました。食べ物は乏しく、雑炊1杯だけが唯一の楽しみでした。3か月に1度家に帰ると、母が焼き芋を持たせてくれます。引き出しに隠し、古くなって糸を引くまで大切に食べて、何とか飢えをしのぎました。

明日、特攻機に乗るという少年たちが「お国のために死にいく」と語った顔を今も忘れることができません。

戦争は個人を殺してしまう。自分を押し殺していることにすら気付かない。戦争で自分を押し殺すことは二度とあってほしくないと思います。



入江一恵さん(91歳・太寺)

1944年、実家の高松市から学徒動員され、飛行機工場で働いた。オレンジ色のベニヤ板で特攻機を造っていた。機械に挟まれ大けがを負った右手には、今も後遺症があります。

戦争体験者のお二人にお話を伺いました――

明石公園は生き地獄だった

勉強がしたかったのに、勤労奉仕の毎日でした。1945年1月19日の空襲では、家の裏庭にあった壕に飛び込んだ途端、ものすごい爆風とともに壕の中の砂が震え、「生き埋めになる」と恐怖を感じました。

同年6月、市内に空襲があったのは計3回。明石公園では遺体が木に引っかかったり、頭が欠けていたりしたと後で聞きました。戦争はたくさん犠牲が出ます。どんなことがあっても二度と戦争はしてはいけません。戦争は百害あって一利なしです。

まつもと
松本 ヤスさん(89歳・桜町)

明石高等女学校(現明石南高校)へ入学。1、2年生のときは、授業ではなく運動場を耕したり、家庭供給用のまきを割る勤労奉仕の日々を過ごしました。



戦没者を追悼し平和の祈念を

8月15日、正午から黙とう

8月15日は、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」。戦争で犠牲になった人たちに追悼の意を捧げるとともに、平和を祈念するため、市民のみなさんも正午から1分間の黙とうを捧げましょう。

お問い合わせ／福祉総務課 (TEL 918-5025)
(FAX 918-5106)

市内5か所の忠魂碑でも
正午から黙とうが行われます

場所／中崎忠魂碑(中崎遊園地・相生町1丁目)

林忠魂碑(林神社・宮の上)

大久保忠魂碑(住吉神社・大久保町大久保町)

魚住忠魂碑(魚住市民センター・魚住町西岡)

二見忠魂碑(御厨神社・二見町東二見)

*参列される場合は、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用や咳エチケットの励行などをお願いします。

